

特別講演 1

「内科を受診する脳腫瘍の実際と最新の脳腫瘍手術」

福井大学医学部 脳脊髄神経外科 准教授

北井 隆平 先生

私は福井県で脳腫瘍治療に携わり、25年が経過した。初診で脳腫瘍患者が我々脳外科を受診することは少なく、地域の診療所でしばらく治療されている病歴を聞くことも多く経験する。脳腫瘍は若年に発生し、頭痛以外の主訴のことがある。食思不振や活気のなさ、学業、仕事の不調を訴え、胃腸炎やストレスによる心身症として加療されている。高齢者では、ちょっとした精神症状の変化で見逃されていることもある。症例を数例提示し、治療のヒントを探る。

脳腫瘍は手術単独で治癒をもたらすことは少数である。電気生理学やナビゲーション技術を利用した各種の術中のモニタリングにより安全で計画通りの手術治療が行えるようになった。かつては治療成績がきわめて不良であった膠芽腫でも長期生存例がえられつつある。術中覚醒下手術や神経内視鏡など最新の手術技法を紹介する。